



この人に訊く

懇談会や相談会も頻繁に開催されていますね。

片岡 和歌山県から山崎知行先生という内科医の先生をお招きし、2012年2月から毎月、

健康相談会を開いています。2016年度からは2カ月に1回のペースになりますが、お子さんからおじいちゃん、おばあちゃんまで個人を対象にしたものです。その他にも山崎先生を囲む懇談会を開催しています。

あともうお一人、猪苗代にお住まいの小林恒司先生という精神科の先生にも毎月来ていただいで、心と体の健康相談会を開催しています。活動日は水・木・金曜日。4月からは月曜日と土曜日が加

わりました。時間は午前10時から午後4時までです。個人相談は予約制ですが、おしゃべりをする懇談会は「いつでも、どんなでもどうぞ」という形を取っています。

あと「しゃべり場」というのが

あるんですけど、2011年5月から毎月開いています。みんなが悩みを打ち明けたり、不安を語り合ったり、情報を交換したり、支え合ったりという集

派を超えたお守さんとか、もちろん個人の方からも全国からたくさん支援をいただいています。

今後、新たな活動は?

片岡 子どもたちの健康を見守り、不安や病気に対して支えていくことが必要になるかも知れないと思います。

県の発表では、会津若松市内ですでに8人の子どものさんが甲状腺のガン、または強い疑いがあると言われてます。空間線量は低いから大丈夫、ということではなく、そこに居続け

会津放射能情報センター

代表

片岡輝美さん

③

そこに居続けられ、ぼ体への影響がゼロとはいえないわけですから、甲状腺の異常は原発事故の影響ではないと言われても、私

たちは納得できません。

問題はそういう子どもたちが本当にフォロイされているのかという点です。「まさか、わが子が」と、原発事故以降、心配していたことがわが身に起こったショックはとて大きいわけです。その方たちのフォロイは大丈夫なんでしょうか。そういう方には不安に寄り添い、何かあった時にはセンターを訪ねればよいんだと思ってもらいたいと考え

ています。そうした不安を一つ一つ取り除き、事実と向き合うために、自分の体調を管理していただきたいと思っています。

皆さんのご近所に「環境放射能測定器リアルタイム線量計」があったと思いますが、「あれ、いつの間にかなくなっている」と気づいた方はいるでしょうか。

昨年12月、毎日散歩で数値を確認する線量計がオフになっていたのに気づいた男性が、会津若松市に問い合わせました。すると市内9カ所の線量計が撤去され、避難解除地域へ移転されること「撤去の話は聞いていない」という地域住民の強い要望により、今年1月に説明会が開かれたのですが、市側の予想を大きく上回る30名が出席しました。住民側は「廃炉には30〜40年かかる。それまで何が起るかわからない。撤去は早すぎる」、「線量計は市民が数値を知る最低限の情報。原子炉にはまだ不安材料が多い」と訴えましたが、市側は「今後、原発は不測の事態には絶対なりません」と断言。さらに「そもそも線量計は多すぎると思っていたし、住民に危機意識はなくなっていると思った」と続けたのです。もちろん会場は「そんなことを言ってる方が一の事態に責任が取れるのか」、「原発に事故はないと言うが、こんな事態になっっているだろう」、「これほどの参加者がいるというのには、心配している住民がいるという証拠だ」と、騒然となりました。

(つづく)



私たちは 放射能
命を
放射能情報
放射能から子ども

そのほか、保養プログラムといって、リフレッシュキャンプみたいな形で、子どもたちを北海道や神戸へ連れていく活動があります。3月末にも神戸に連れていきました。

活動資金は?

片岡 会費と協賛金です。中でも協賛金の割合が非常に大きいですね。全国の教会や市民団体、宗